

日本科学者会議 福井支部 ニュース

11月例会報告

去る11月28日(火)18時から福井大学にて11月例会が開かれ、大久保公夫氏(福井空港の拡張中止を求める会事務局長)から「空港問題ーその後の展開」というタイトルの資料配布と報告がありました。空港問題は非常に緊迫しており、政府の公共事業見直しの一つに取り上げられたにもかかわらず、福井県の原発問題との取り引きという複雑な事情も加わって、非常に微妙な情勢であることが報告されました。報告内容は別紙のレジメを参照して下さい。当日は、地元の方々が参加され、熱い討論が行われました。

その後の報道では、地元の「総論同意」が出されましたが、反対の意思を明確にしている地権者が存在する以上、工事着工には入らせないことが重要です。支部としても今後とも支援体制をとることが必要です。会員の中で、ご意見などありましたら、事務局までお寄せ下さい。

市民講演会「福井の昆虫における生物多様性」

去る12月3日(日)1時30分から福井大学教育地域科学部1号館11講義室において佐々治寛之氏(福井大学教授・生物学)が講演を行いました。佐々治氏は来年3月にご退官の予定で、退官記念講演も兼ねた講演会となりました。参加者は少なかったのですが、内容は非常に濃いもので資料がA4で32枚という膨大なものでした。内容のポイントは以下の3点でした。

◎生物多様性とは何か→地球上でこれまで知られている生物の種類は植物約30万種、動物約100万種、そのうち昆虫類は約75万種といわれています。実際にはその数十倍がいると考えられています。

◎福井県には何種くらいの生物、そして昆虫類がいるだろうか→1998年から99年にかけて福井県では、地形・地質、植物、植生、鳥獣、両生・爬虫類、昆虫類、各種水生動物を詳しく調べて来ました。また、福井県のすぐれた自然という報告書を刊行しました。そうしたもののうち昆虫についてお話ししましょう。◎福井県の自然環境のノサマガエルもメダカもいました。バッタ、コオロギもめっきり少なくなりました。また、里山の自然環境が心配されています。まだまだ身近な環境について考えたいと思います。

講演終了後の質疑では、滋賀県の湿地についてや中池見湿地の生態系を保全するための方法、さらにビオトープの在り方などについて、議論がなされました。

4時30分頃から大学近くのお店で懇親会を持ちました。佐々治先生のエネルギーに

感服するとともに、今後ますますお元気でご活躍されますように。

J S A 参与の影山剛先生、ご逝去される

支部の会員で J S A 本部の全国参与でもある影山剛先生（福井大学名誉教授・東洋史）は、さる 13 日に肺癌のためご逝去されました。告別式には支部から献花と弔電を打ちました。電文は以下の通り。

弔電文「影山先生 先生は日本の科学の発展と民主主義のために生涯をささげられました。日本科学者会議は先生のご活躍に支えられ発展してきました。心より哀悼の意を表します。 日本科学者会議福井支部 代表幹事 小幡谷洋一・佐々治寛之」

第 4 回地方自治研究集会開かれる

さる 12 月 3 日、福井大学において第 4 回地方自治研究集会が開催されました。記念講演は、佐々木雅幸氏（立命館大学）が「21 世紀の地方自治－市町村合併と地域経済」と題して行いました。分科会は 5 つに分かれ、ゴミ問題、保育・情報公開など、重要なテーマについて議論を深めました。